

令和 8 (2026) 年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験問題 (第 2 次)

試験科目名： 比較政治

持込み等： 不可

問 1

第二次世界大戦後から現在に至るまでの内戦の歴史的変遷について論じなさい。また、内戦が発生する要因と、内戦が終わるための条件について、理論的に説明しなさい。

(50点)

問 2

独裁者が権威主義体制を維持するにあたって、複数の障害が存在するとされる。これらの障害とは何か、また独裁者はそれらにどのように対応するのか。比較政治学の理論と具体的な事例を用いて説明しなさい。

(50点)

出題の趣旨及び解答の指針

問1

第二次世界大戦後から現在に至るまでの内戦の歴史の変遷について論じなさい。
また、内戦が発生する要因と、内戦が終わるための条件について、理論的に説明しなさい。

(50点)

<出題の趣旨>

・本問は、内戦という、比較政治学における代表的な武力紛争の分析対象について、適切に理解できているかを問うものである。

<解答の指針>

・歴史の変遷については、内戦の数や質に関する世界的なトレンドを論じることが求められた。具体的には、第二次世界大戦以降の植民地独立期の増加、冷戦終結前後でのピーク、その後の減少傾向が2010年のアラブの春以降増加に転じる、というトレンドである。

・発生要因については、民族的要因、政治的要因、経済的要因をそれぞれ把握する必要があった。

・終わるための条件については、「情報の不確実性」や「コミットメント問題」など、代表的な概念の定義を述べた上で、それらを解消するための条件を説明できているかが重要であった。

・単に史実を述べるだけでなく、内戦という事象を比較政治学の理論を踏まえて説明できているかが解答のポイントであった。

問2

独裁者が権威主義体制を維持するにあたって、複数の障害が存在するとされる。これらの障害とは何か、また独裁者はそれらにどのように対応するのか。比較政治学の理論と具体的な事例を用いて説明しなさい。(50点)

<出題の趣旨>

・本問は、比較政治学を学ぶ上で重要なテーマである政治体制、とりわけ権威主義体制について、基礎的な知識を身に着けているかを確認するためのものである。

<解答の指針>

・障害については、まず「独裁者のジレンマ」という重要な概念について定義できているかがポイントである。その上で、軍やエリートの裏切り、市民の反乱という国内的課題への対応のみならず、(特に冷戦終結以降の民主化圧力などの)国際社会への対応をそれぞれ

れ説明することが求められた。

・上述した課題への対応については、議会や政党という制度を介した権力分有、穏健派の取り込み、軍の裏切りを防ぐための利権分配、選挙を介した市民のガス抜き、選挙監視団を呼ぶことでの国際社会への対応などが挙げられる。それぞれ理論や事例の両方を具体的に論じることが求められた。

令和8(2026)年度北海道大学大学院法学研究科
修士課程入学者選考試験問題(第2次)

試験科目名： 現代政治分析

持込み等： 不可

問1 政治体制は、どのようなメカニズムによって変動すると考えられるか、筋道立てて論じなさい。(50点)

問2 国際的な脅威の存在は、国内の政党政治にいかなる影響を及ぼすと考えられるか。異なる政治的条件の下における影響の現れ方の違いに着目して論じなさい。(50点)